蕎趣会
会報
木鉢
第６号（2025年10月5日）
発行責任者　蕎　趣　会
会長　吉田　進

東家の系図

北海道で最初のそば屋
1869年（明治2年）　伊藤文平が息子の竹次郎を連れて小樽へ。（文平は福井県の下級武士）
1874年（明治7年）　屋台でそばの行商を始める。　これが北海道における最初のそば屋

※不思議なことに、東京では明治になった、とたんに夜そば売り（夜鷹蕎麦・風鈴蕎麦）が凋落した時代である。

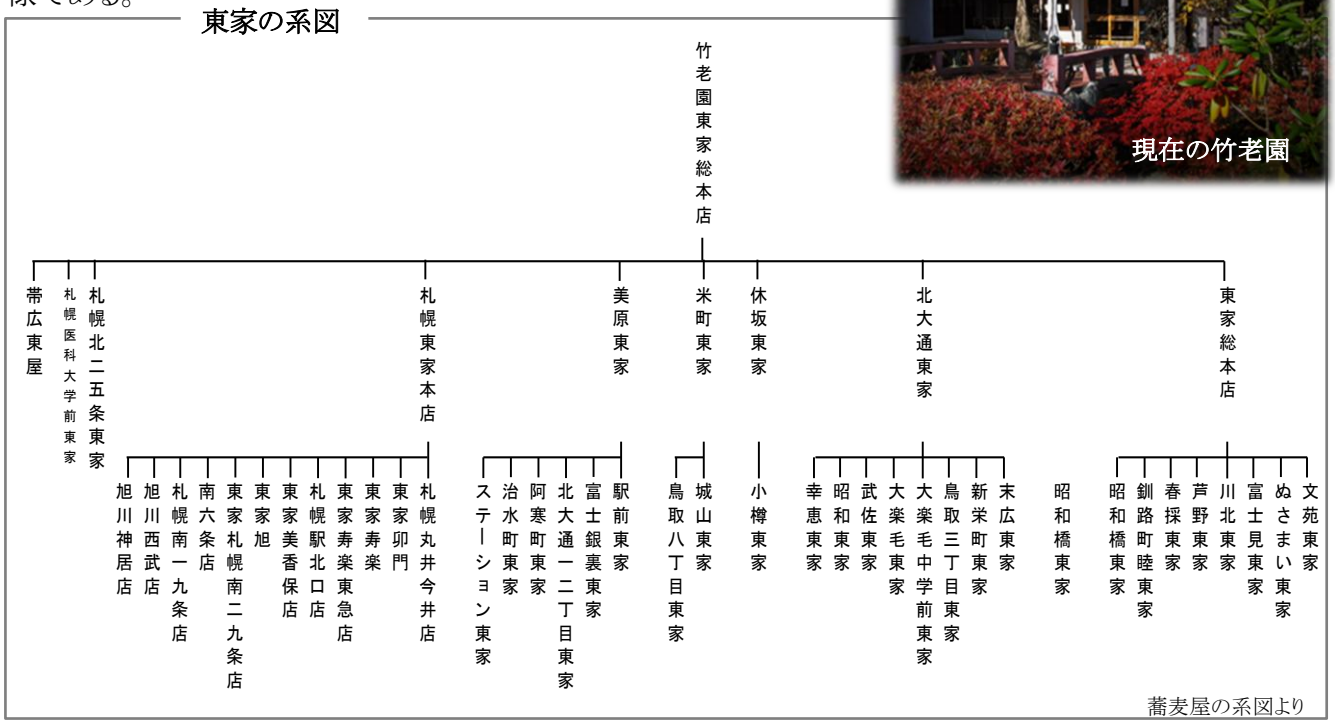
東家の誕生
1877年（明治10年）　小樽で　伊藤文平が「やまなか」の暖簾で店舗を開業する。
1902年（明治35年）　突然店を閉め、函館に移る。
1904年（明治37年）　函館松風町で『東家』を開業。
1907年（明治40年）　函館大火で店舗焼失。再起を期して釧路へ。
1912年(明治45年)　釧路真砂町に東家を開店。
平屋60坪程度の蹄鉄屋の建物を買い取り、そば屋に改装。
当時のそば屋は花街の影響か酒と料理が主体で酌婦が付く料理屋風の営業形態が主流で有ったが竹次郎は純粋な食堂としてのそば屋の営業に徹していた。

大正12年 真砂町に新店舗を再建

竹次郎の信念（二代目当主）
『そば屋はだれもがいつでも気軽に食べられる店でなければならない』
東家一門では緑色がかった蕎麦が伝統で、暖簾には「藪そば」と書かれているが、その経緯は伝えられていない。竹次郎っは旅好きで明治時代に東京の藪（かんだやぶそば）のそばを見て、なるほどと思った可能性はある。
店の在り方などを含めて江戸そばの伝統はかなり意識していた様である。

現在の竹老園

東家の系図



蕎麦屋の系図より

次回は　江戸蕎麦とは・おいしいお蕎麦の定義